

外国語活動の授業の課題

- 1 ねらいや意図が不明確な活動が，行われている授業が見られます。
- 2 授業の進行をALTに任せ，学級担任が見ているだけの授業が見られます。
- 3 評価の場面や評価方法が明確になっていない授業が見られます。

授業改善のための取組として（案）

□ 子どもがコミュニケーションの楽しさを味わうことができるよう，それぞれの活動のねらいを確認しましょう。

- “Hi, friends!” で示されている4種類の活動の意図を確実に理解し，授業の目標に沿った活動を選定する。
- 十分慣れ親しんだ表現を使って，友だちとコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるよう，聞く活動，繰り返し言う活動，慣れる活動などを子どもの実態に応じて段階的に取り入れる。

* 活動の意図

- ・【Let's Listen】 設定された語彙や表現を繰り返し聞き，外国語に慣れ親しむ。
- ・【Let's Sing/Chant】 設定された語彙や表現を繰り返し聞いたり，言ったりして，英語特有のリズムやイントネーションに慣れ親しむ。
- ・【Let's Play】 設定された語彙や表現を繰り返し聞いたり，言ったりして，外国語に慣れ親しむ。
- ・【Activity】 友だちと慣れ親しんだ語彙や表現等を使って，コミュニケーションを図る。

□ 学級担任は，授業の進行を管理しながら，外国語を使おうとするモデルとなりましょう。

- 学級担任は，全ての子どもが授業に参加できるように，ALTと役割分担や授業の進め方を確認する。
- 学級担任は，授業で使用するクラスルーム・イングリッシュを決めておくなど，外国語を使おうとするモデルとして，外国語を使う姿を積極的に子どもに見せる。
- * 例えば，使おうとするクラスルーム・イングリッシュを，教室の見える位置に貼るなどして，意図的に使い続けることにより，英語の発話量を増やすことができます。

□ 本時の目標の実現状況を見取ることができるコミュニケーション活動等を位置付けましょう。

- 友だちへのインタビュー活動等を評価場面に位置付け，『できること』や『できないこと』について進んで尋ねようとしているなど，おおむね満足できる子どもの姿で評価規準を設定する。
- 行動観察とともに，“Hi, friends!” への記述や振り返りカードなど多様な方法で子どもの学習状況を見取る。
- * 例えば，授業のねらいを踏まえ，「日本語と英語の音声の違いで気付いたこと」や「コミュニケーションの内容」などを振り返りシートに書かせると，授業のねらいに沿った子どもの気づきを促すことができます。